# 令和　７　年度

# 事務事業評価シート【社会教育・スポーツ分野】

## （社会教育・スポーツ課）

## （　　中央公民館　　）

## （　　図　書　館　　）

### 総合評価ランク

| | |
|---|---|
| A | 優れた取組みが多く、十分成果が上がっている |
| B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
| C | 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い |
| D | 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要 |

### 目　次


1　人生１００年時代の学び直しや生涯学習の推進
(1) のへじ元気講座 ・・・・・ 1
(2) ハッチョウトンボ観察会 ・・・・・ 2
(3) 町文化賞、教育委員会文化賞の表彰 ・・・・・ 3
(4) みんなの教室（中央公民館） ・・・・・ 4
(5) 二十歳を祝う会（中央公民館） ・・・・・ 5
(6) 町民の読書活動の推進（図書館） ・・・・・ 6
2　地域の強みを生かした地域づくりを担う人財の育成
(1) 生涯学習大学 ・・・・・ 7
3　学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成
(1) 子ども会事業 ・・・・・ 8
(2) 家庭教育推進事業 ・・・・・ 9
(3) いのちのお話出前講座 ・・・・・ 10
(4) 学校等と連携協力した読書活動の推進（図書館） ・・・・・ 11
(5) 親子ふれあい読書「家読」の奨励（図書館） ・・・・・ 12
4　社会教育推進のための基盤整備
(1) 図書館サークル・おはなしボランティアの育成（図書館） ・・・・・ 13
5　ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
(1) 青森県小学生スキー大会の開催 ・・・・・ 14
6　競技スポーツの推進
(1) 町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰 ・・・・・ 15
7　スポーツ環境の整備・充実
(1) 学校体育施設の開放促進 ・・・・・ 16
(2) スポーツ少年団への支援と育成 ・・・・・ 17
(3) 青森県民駅伝競走大会選手強化支援 ・・・・・ 18
(4) 町スポーツ協会活動支援 ・・・・・ 19
(5) 競技スポーツ強化支援事業 ・・・・・ 20
(6) 体育施設の総合的な修理修繕と運営 ・・・・・ 21
8　第８０回国民スポーツ大会の開催
(1) 青の煌めきあおもり国スポ野辺地町実行委員会 ・・・・・ 22

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 人生１００年時代の学び直しや生涯学習の推進 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | のへじ元気講座 | 担当者名 | 米内山　周大 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 参加者の自主的な学習意欲を促進し、相互交流を通して地域活性化を図り町を「元気」にすることと、参加者一人ひとりが生きがいを見つけ「元気」な生活を送るための心と体の健康づくりを目的に実施する。 | | | |
| 事業の対象 | 成人 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 56 千円 | 3 千円 | 58 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | 受講料　1,000円　受講者21名、延べ受講者102名<br>①「ストップ！詐欺被害」（野辺地警察署 刑事生活安全課 秋元 実氏）<br>②「横浜町郷土館、北洋館（海上自衛隊資料館）」（町外研修：横浜町、むつ市）<br>③「パン食文化と青森県」（青森県立郷土館 増田 高寧氏）<br>④「今こそNISAで資産形成」（青森みちのく銀行 野辺地支店）<br>⑤「ニュースポーツ」（青森県立種差少年自然の家）<br>⑥「野辺地の100年」（歴史民俗資料館　山崎 杏由氏）<br>⑦「三戸城跡の歴史について」（三戸町教育委員会 史跡対策室 野田 尚志氏） |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| | ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・年配の方の生涯学習の場として役割を果たしているが、男性の参加者がいないため、参加を促進する内容、広報を今後も検討する。<br>・年配の方が多いため、受講料以外の自己負担（材料費等）がなるべく発生しないよう工夫している。<br>・今後も受講生のアンケート結果を参考に、講座内容を工夫し、より幅広く学習・活動できる場を提供していく。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・毎年違う講座内容を企画するのは大変だと思うが、課題も解決できるように継続をお願いする。

・男性の参加がなかなか思うように行かないのが続いている。アイデアを出し合って、ぜひ一人でも参加できるようにしてほしい。

・事業の開催が広く知れ渡っていないように感じている。もう少しＰＲを。

・毎年男性の参加者が少ないことが課題にあがっているので、何とか対処法を考えてほしい。みんなの教室の男性の多いサークル等に声掛けしてみてはどうか。

評価委員意見（令和7年度）

・講座は、興味深い内容が多いのでLINEを使うなどPRに力を入れてほしい。

・受講料が安くて、参加者には有難いと思う。人気の講座は第２弾があってもよい。

・４，５月の広報の他に、町の公的機関等へのポスターなど掲示してみては。

・講座内容については工夫がなされているので参加者増の活動に力を入れてほしい。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 人生１００年時代の学び直しや生涯学習の推進 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | ハッチョウトンボ観察会 | 担当者名 | 玉山　順一 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | まかど温泉スキー場あったかハウス「まかどの森」前に絶滅が危惧されているハッチョウトンボの生息が確認されたことから、生息域を保護しつつ、その魅力を伝える。平成28年度から、町内小学校3年生を対象に総合的な学習として観察会を実施している。 | | | |
| 事業の対象 | 町内小学校3年生 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 10 千円 | 10 千円 | 10 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ・ハッチョウトンボ生息域内への侵入を規制（６月～１０月）し、トンボが生息できる環境づくり・保全を行っている。<br>・観察会は、文化財保護審議委員の高沢岩男氏を講師に招き、実施した。<br><br>町内３年生（野辺地小学校、若葉小学校）<br>実施日：令和7年7月4日（金）10：00～ |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| | ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| | ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| | ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
| 評価説明及び考察、課題 | ハッチョウトンボが生息する場所である保護区がどんな場所であるのか、どんな環境であるのかも知ってもらうことで保護区の整備にも興味を持ち保護活動につながるのではないかと考えている。<br>講師を務める高沢氏以外にも講師を務めることができる後継者問題について検討していきたい。 | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・講師の後継者を見つけながら、継続をお願いしたい。

・自然の大切さを伝える取組はこれからも必要だと思う。ハッチョウトンボが生息できる環境の保全も継続をお願いする。

・今後の継続と講師の後継者の育成を望む。

・現行の体系で継続していただきたい。貴重な行事でもあるし、子どもにそのことを伝えるためにも必要と考える。

・自分のふるさとの宝を知る事業なので、これからも大事に大切につないでほしい。

評価委員意見（令和7年度）

・今後も継続していただきたい。学校でも子どもたちはトンボに興味を持っている様子が伝わってくる。

・ハッチョウトンボは町の宝でもあるので、継続してほしい。

・継続を望みます。

・１年１回ではどうなのか。３，４年の複数学年でできないか。

・講師の後継者の育成を強く望む。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 人生１００年時代の学び直しや生涯学習の推進 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 町文化賞、教育委員会文化賞の表彰 | 担当者名 | 小又　美穂 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 文化活動において優れた業績をあげ、町の文化振興に寄与した方を表彰する。 | | | |
| 事業の対象 | 町民一般 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 98 千円 | 76 千円 | 231 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ●授与式　令和8年2月25日（水）　野辺地町中央公民館　ホール<br>○町文化賞<br>文化奨励賞（個人）8名<br><br>○教育委員会文化賞<br>①文化優秀賞（個人）31名　（団体）1団体<br>※令和４年度から町ＨＰに候補者募集の案内掲示。 |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない | |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない | |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない | |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない | |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
| 評価説明及び考察、課題 | ・関係団体との連携を図るほか、引き続き広報誌と町ホームページで候補者の推薦を呼びかけ、事業を周知し、受賞者漏れを防ぐ。<br>・時代の流れに合わせた表彰規則、運用要綱等の見直しを随時行う。<br>・令和7年度表彰分から、町内小中学校の負担軽減のため、小中学生については各団体からの推薦のみとしている。 | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・受賞者漏れがないようにしつつ継続を望む。

・活動している方々の励みにもつながることであり、さらに拡充していただけきたい。

・今後も継続をお願いする。

評価委員意見（令和7年度）

・今後も継続を望む。

・R8年度に急激に予算が増えているのは物価高で理解できるが、表彰の品の検討が必要ではないか。（いただいてうれしい物、記念になるものとは）

・励みの場。続けてほしい。副賞については、最近は実用的なものが良いのでは？

・受賞者漏れが無いよう注意しながら継続を望む。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 人生１００年時代の学び直しや生涯学習の推進 | 担当課名 | 中央公民館 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | みんなの教室 | 担当者名 | 二木　智徳 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 町民の学習意欲に応えるため、魅力ある教室を開設し町民のふれあいと趣味の高揚を図るとともに生涯学習の一環として実施する。 | | | |
| 事業の対象 | 一般 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 238　千円 | 312　千円 | 643　千円 |

**事業の実績・成果等（数値）**

受講生数　275人（実人数）　　教室32講座　　※R6 254人（実人数）

●経費内訳

| | |
|---|---|
| 文化祭協力金 | 50,000円 |
| 事務費（振込手数料含む） | 33,445円 |
| 備品購入費 | 48,400円 |
| 燃料費（暖房費） | 80,000円 |
| 賃借料 | 100,000円 |
| （合　計） | 311,845円 |

**事業の評価（自己評価）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない | |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない | |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない | |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない | |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |

**評価説明及び考察、課題**

成果：講座数の増　　R6 31講座　→　R7 32講座
　　会員数の増　　R6 254人　→　R7 275人

課題：高齢化により受講生が固定化している。新たな参加者の獲得が課題。

**事業の方向性**

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・課題解決に向け、魅力ある教室の運営をお願いする。

・男性も楽しめる教室があれば良いと思う。

・みんなの教室のＰＲも必要と思う。

・担当課の評価のとおり。

・参加者増加に向けたＰＲがもう少し必要。

・毎年同じ課題が挙げられているので、改善を望む。

評価委員意見（令和7年度）

・一部では小学生、中学生が参加している教室もあるが、全体的に参加者の高齢化が定着している。多世代が交流できる教室を増やして欲しい。

・みんなの教室受講者の高齢化が進み、若い方々の受講者をどのように増やしていけるかが課題。

・多様化のうえ、現代にマッチした改善が必要では。

・課題を改善する努力を望む。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 人生１００年時代の学び直しや生涯学習の推進 | 担当課名 | 中央公民館 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 二十歳を祝う会 | 担当者名 | 濵野　裕子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 令和7年度中に二十歳を迎える方々の門出を祝うため開催。 | | | |
| 事業の対象 | 平成16年4月2日から平成17年4月1日生まれの二十歳を迎える方 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 363 千円 | 441 千円 | 483 千円 |

**事業の実績・成果等（数値）**

開催日　令和8年1月11日（日）
参加者　60名

| | |
|---|---|
| 記念品 | 194,700円（マグカップ、ボールペントートバック） |
| 壇上花 | 20,000円 |
| プログラム | 106,920円 |
| 記念写真 | 68,400円 |
| 消耗品 | 36,531円 |
| 郵便料 | 14,300円 |
| 合計 | 440,851円 |

**事業の評価（自己評価）**

| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
|---|---|---|
| ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| **有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）** | | |
| □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| **経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）** | | |
| □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| **目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）** | | |
| ■ 達成できている | □ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
| 評価説明及び考察、課題 | R7年度（R8/1/11）開催では商品製作を依頼し、名入りマグカップ/ボールペン/トートバックを記念品として実施した。<br>少子化の影響により年々人数は減少しているがこの状況を前向きに捉え前年より少しでも工夫を凝らしてお祝いの会を実施したい。 | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・一生に一度のイベントなので、参加者の思い出に残るように要望を汲み取りながら継続をお願いする。

・記念品の見直しをしていることについて、野辺地愛あふれる「事」とか「物」等があれば良いと思う。

・一生の思い出にもなる事業であり、継続していただきたい。

・継続を希望する。

評価委員意見（令和7年度）

・親にとっても大事なイベントである事から、思い出に残るような会を望む。

・参加者からの要望の汲み取りをどのように実行しているのか不明。前年度の参加者を次年度のイベントプランに参加させる事も案としてはどうか。

・立派な大人になってもらいたい趣旨を強くアピールしてほしい。

・継続を希望する。参加者に渡す記念品について考え、新しいものにしたことには前向きに考えている姿勢が伺える。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 人生１００年時代の学び直しや生涯学習の推進 | 担当課名 | 図書館 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 町民の読書活動の推進 | 担当者名 | 吉田　真希子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 生涯学習施設の拠点として、０歳から高齢者までを対象とした各種事業を実施し、趣味や学習の場を提供するとともに、読書の推進と文化の振興を目的に実施する。 | | | |
| 事業の対象 | 町民（乳幼児、小学生、中学生、一般） | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 86　千円 | 125　千円 | 185　千円 |

**事業の実績・成果等（数値）**

○集会行事
【子ども】・おはなし工房（4～10月・10回）32名
・第65回読書マラソン（7～8月）50名
・出前おはなし会in児童館（3月）25名
・コスモスおはなし会　（11～12月・2回）10名
【一　般】・読書講演会　講師：山田スイッチ氏（コラムニスト）（12月）30名
【全世代】・読書deスタンプラリー（4～5月、10～11月）63名
・古雑誌無料譲渡会（10～11月・9日間）延べ43名、150点譲渡
○展示
【本　展】・テーマ本の展示（月1回）
【ミニギャラリー】・絵画展　（7～8月）　・季節の壁面構成（随時）
・青森県近代文学館「文学パネル」展　（9～11月、1～2月）
○広報活動
広報のへじ（毎月）、町・図書館HP（随時）、LINE（2回）、読書講演会案内（回覧版）
図書館だより（小学生版、中学生版、保護者版）延べ4回

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
|---|---|---|

**評価説明及び考察、課題**

・朗読の会の協力により「コスモスおはなし会」を立ち上げることができた。今後は毎月の行事としての定着を目指す。
・読書講演会の参加者の6割が60代と70代。参加理由は「広報を見て」と「友人や図書館員の勧誘」がそれぞれ4割だった。広報を見る習慣がある世代には「広報」、参加を迷っている人には勧誘やロコミが有効と思われる。とても好評であった。
・家読に直結する子育て世代、広報見る習慣がない世代へのアプローチ方法、町のLINE、オンライン申込みだけでは集客には繋がらないことが課題。

**事業の方向性**

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・これからも継続が必要だと思う。参加者を増やす取組も必要。

・周知をしっかりしてほしい（ＳＮＳの活用も含め）。

・一般向けの事業の充実を希望する。

・周知不足の感が強い。更に強化を。

・実施している事業はとても素晴らしいと思うので、これからも町民に届き、響くよう継続してほしい。

評価委員意見（令和7年度）

・朗読の会や検討中の新団体と連携して事業の継続を希望する。

・素晴らしい事業が多いので町民に広く知らせる方法に期待する。

・町民のニーズに合わせた工夫を。リニューアル、改善と改修を検討してほしい。

・周知をしっかりして町民にお知らせしてほしい。せっかく素敵なイベントを計画しているので、発信にも力を入れて頑張ってほしい。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 地域の強みを生かした地域づくりを担う人財の育成 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 生涯学習大学 | 担当者名 | 玉山　順一 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 体系的な高度な学習内容の講座を開設し、町民の生涯学習及び社会参加活動による生きがいの創造を推進するとともに、学生が地域活動のリーダーとして活躍することを目指し実施している。 | | | |
| 事業の対象 | 成人（年間登録制） | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 80 千円 | 85 千円 | 90 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | 令和7年8月～令和8年1月　18：00～19：30※一部14:00～　会場：役場　町民ホール・中央公民館　ホール<br>受講料　2,000円　受講者数　26名　延べ　104名<br>①「野辺地町と北前船」野辺地町歴史を探る会　会長　鈴木　幹人　氏<br>②「脳と心と身体のバランスを保つシナプソロジー講座」スマイルko-Boハッピー　齊藤　由美子　氏<br>③「特殊詐欺について」野辺地警察署　生活安全課　秋元　実　氏<br>④「ストレッチング・リズム体操」日本フォーク連盟公認指導員　小倉　洋子　氏<br>⑤「歩兵第五連隊雪中行軍遭難事件について」加藤　幹春　氏<br>⑥「医療で取り組む健康づくり」県立中央病院健康推進室 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | 固定の受講者はいるが、新しい受講生（主に若年層）が少ないため、幅広く興味を持てるような講座の実施が必要である。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・若年層の受講生を増やすため、町民アンケートを実施するなどニーズの把握に努めていただきたい。

・講座内容の選定も大変だと思うが、新規参加者も増やせる工夫をしながら継続をお願いする。

・年を重ねても学びの場は必要なので、今後も継続をしてほしい。

・もう少しＰＲをしてもいいのでは。

・受講料は、１講座３００円程度でいいのではないか。

・様々な分野の講師がそろっていて大変興味深い事業である。参加者が増えることを期待する。

評価委員意見（令和7年度）

・通年で参加者を募集しているのであれば、LINEでPRしてはどうか。

・のへじ元気講座との違いをあまり感じない。

・生きがい学習、興味深い事業にしてほしい。

・毎年新しい受講生が少ないとの課題になっているので、本腰を入れてがんばってほしい。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 子ども会事業 | 担当者名 | 玉山　順一 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | こどもたちの健やかな成長と青少年の育成を目的として実施。<br><br>・子ども会の加入状況<br>幼児4名、小学生35名、中学生4名　計43名 | | | |
| 事業の対象 | 子ども会　会員 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 72 千円 | 76 千円 | 80 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ・活動体験（全２回）<br>①令和７年８月３日（日）　子ども会夏休みわくわくサマー体験<br>こども：１３名　大人：１４名　計：２７名<br>②令和７年１０月２０日（月）　バス遠足<br>こども：７名　大人：１２名　計：１９名 |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない | |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない | |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない | |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない | |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・加入する子どもの数が減少しているなか、子どもたちが同年代や年齢が異なる仲間と接しながら、さまざまな体験活動を通じて成長することは貴重であると考えている。そのような活動を提供し続けることについては、子ども会の役員の方々や世話人等と、ともに推進することが必要である。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・子どもたちにとって貴重な体験活動の機会になっていると思う。参加者を増やす工夫をしながら継続をお願いする。

・今後も継続を望む。

・子どもたちの活動の場がこの事業によって増加し、より良い人材が成長することを期待する。

・児童数の減少により活動の活発化を図れないのは理解できるが、予算を措置してでも盛り上げていくべきと考える。

・事業内容は大変評価できるが、参加する子どもが少ないのは課題である。子ども会に登録する子どもが年々減っていくのは時代の流れで仕方のないことかもしれないが、この活動をたくさんの方に知っていただきたい。

評価委員意見（令和7年度）

・学校、家庭ではなかなか体験させてあげられないことを行っているようなので継続してほしい。

・子供達が様々な人と交流するいい機会なので、今後も継続を望む。

・内容が素晴らしいのに参加者が少ないのがとても残念に思う。

・体験型学習は必要。続けてほしい。スポット型の募集はどうか。

・子供の減少に加え、スポーツ少年団や塾に通う子供も増え、子供会活動に参加できる全体数がかなり減っていると思われるが、なんとか継続の方向でがんばってほしい。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 家庭教育推進事業 | 担当者名 | 小又　美穂 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 多くの保護者が集まる保護者会や、参観日等の機会を活用して、幼稚園、保育園、小中学校の要望に応じて家庭教育支援のための学習会を提供する。 | | | |
| 事業の対象 | 幼児・児童・生徒とその保護者（町内保育所、幼稚園、小・中学校） | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 10 千円 | 20 千円 | 60 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ①10月23日（木）カトリック幼稚園<br>「親子でキッズビクス教室」沼山優子氏<br>②11月15日（土）野辺地保育園<br>「運動あそび教室（トランポリン）」アクシススポーツクラブ　玉山貴宏氏 |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない | |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない | |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない | |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない | |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
| 評価説明及び考察、課題 | 家庭教育を学ぶ機会を絶やさないように、幼稚園、保育園、小中学校と　連携し、対象者から挙げられた事業内容や要望を汲み取りながら継続していく必要がある。 | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・他の幼保小中学校でも活用できる工夫が必要だと思う。

・ＰＲが必要と思う。もっと活用できるチャンスがあれば良い。アイデアがほしい。

・もう少し予算措置をして対象も広め、事業を拡大してもいいのではないか。

・町連合ＰＴＡの中の事業に加えることはできないものか。

評価委員意見（令和7年度）

・引き続き、幼保小中学校と連携した活動を期待する。

・PRが大きい課題と思われる。

・対象の拡大を望む（小学校１，２年までなど）

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | いのちのお話出前講座、沐浴・育児体験 | 担当者名 | 小又　美穂 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 児童とその保護者を対象に、男女の体の違いや妊娠・出産の知識を正しく伝えることで性と心の教育及び親子の絆を深めてもらうため、青森県助産師会に依頼し「いのちのお話出前講座」を実施。<br>※令和4年度まで県の地域自殺対策強化事業費の補助を受けていたが対象外となり、令和5年度より町費で実施。（助産師会へ県の補助が出ることとなり委託料が減額された）<br>また、令和7年度から中学校の要望で県助産師会に依頼し、中学3年生を対象に沐浴体験を実施。 | | | |
| 事業の対象 | 小学校４・５年生、中学校３年生 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 30 千円 | 50 千円 | 50 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ○いのちのお話出前講座（助産師会へ依頼）<br>9月24日（水）　若葉小学校（４・５年生）児童53人、教員6人<br>10月3日（金）　野辺地小学校（４・５年生）児童67人、教員4人<br>講話、人形を使った抱っこ体験<br><br>○沐浴体験（助産師会へ依頼）<br>12月8日（月）　野辺地中学校（３年生）<br>人形を使った沐浴・着替え、妊婦ジャケット体験 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | 授業だけではなく、体験を通していのちの大切さや自分が大事な存在であることを心身が不安定になりがちな思春期に再確認する機会となった。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | A |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・毎年継続していただきたい。

・これからも必要な事業だと思う。内容も状況により変更して継続をお願いする。

・様々な家庭の事情に配慮しながらも、いのちに関する話は大切な場であると思われるので、継続していただきたい。

評価委員意見（令和7年度）

・毎年継続していただきたい。

・必要な活動の為、継続を希望する。

・参加者からの意見とアンケートがあれば読んでみたい。

・貴重な体験。続けてほしい。

・様々な家庭の事情で内容自体に変化がみられるが、「いのちの大切さ」を伝える事業として継続を希望する。

# 事務事業評価シート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 施　策　名 | 学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成 | 担当課名 | 図書館 |
| 事務事業名 | 学校等と連携協力した読書活動の推進 | 担当者名 | 吉田　真希子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 図書館サークルをはじめ町の各種団体、学校、地域と連携し、読書活動の推進を図る。 | | | |
| 事業の対象 | 図書館サークル、町の各種団体、学校、地域 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 10　千円 | 13　千円 | 15　千円 |

**事業の実績・成果等（数値）**

○ 学校・幼稚園・保育園・児童館・放課後児童クラブ
- 中学校職場体験受入　1回（7月・3日間・2名）
- 図書館見学等受入　1回（7月・小学2年生町探検）
- 青森県立図書館図書セット貸出　2回（前・後期、10施設・合計10セット）
  施設内訳：幼稚園、保育園、児童館、放課後児童クラブ
- 小学1年生への昔語りと「のへじふるさとカルタ」贈呈　52部（5・6月）
- 青森県立図書館学校支援図書セット貸出　1校（4セット）
- 出前おはなし会in児童館　1回（3月・外部読み聞かせ団体）再掲

○ その他
- 団体貸出　4団体（131点）

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |

**評価説明及び考察、課題**

・読書団体や関係機関など連携し、子どもの読書活動の推進に引き続き取り組んでいく。
・ふるさとカルタの増刷、配布や学校での活用に関するアンケート等検討する。
・学校図書館の実態調査、図書館が提供できる支援内容を明確にする。
・電子図書館を導入した場合の学校への提供方法や連携。

**事業の方向性**

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

| | |
|---|---|
| 総合評価 | B |

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・課題の早期解決を目指して事業継続してほしい。

・学校登録ができたことは一歩前進したと思う。

・小学校の図書室を見に来てアドバイスをしてほしい。

・学校との連携をうまく取り、活動を盛り上げていただきたい。

・活動の様子があまり伝わってこなくて残念である。

評価委員意見（令和7年度）

・今まで以上に連携し、子供達の読書活動を推進してほしい。

・学校の手の届かない部分のフォローを希望する。

・町民のニーズに合わせた工夫を。リニューアル、改善と改修を検討してほしい。学校等との連携、PRが必要では。

・活動の様子をもう少し知ってもらう努力をしてほしい。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成 | 担当課名 | 図書館 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 親子ふれあい読書「家読」の奨励 | 担当者名 | 吉田　真希子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | ブックスタート事業を実施し、0歳児からの読書の推進と、「家読（うちどく）」の基礎作りに努める。<br>ブックスタート事業では、７か月児健診にて絵本などを入れたブックスタート・パックを手渡し、ブックスタートの趣旨説明、「毎月２０日家族読書ふれあいデー」の周知、絵本の読み聞かせ、アンケート調査を実施。また、ブックスタートの拡充事業として、１歳６か月児健診で絵本を１冊追加贈呈し、「家読」の推進を図る。 | | | |
| 事業の対象 | 乳幼児とその保護者 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 10　千円 | 13　千円 | 10　千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ・ブックスタート事業　　6回（7月児健診・親子20組）<br>・ブックスタートプラス　4回（1歳6か月児健診・親子38組） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・絵本の贈呈が各家庭へのPRと読み聞かせに寄与している。引き続き保護者に働きかけていく。<br>・事業開始時に準備した在庫が多数あり、配布内容の見直しには至っていない。<br>・健診の受付順に個別対応している。各回の対象が１組から５組程度で、受付時間も短時間となるためボランティアを確保しにくい。<br>・3歳児と5歳児健診を利用しアンケート調査を行い、家庭での家読等の実態把握に務める。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・家読ＣＤの見直しの検討も必要だと思う。

・小学校でも親子ふれあい読書「家読」を月に１度行っているが、以前よりも本に親しむという姿は感じられないような気がする。図書館の活動を通じて、もっと「家読」のすばらしさを伝えてほしい。

・読書に親しむ最初の取組でもあり、しっかりと継続すべき。

評価委員意見（令和7年度）

・学校と連携して、引き続き継続を望む。

・まずは親御さんの意識がなければ家読はとても難しいと思う。実際にどれくらいの傾向なのか。

・他事業との連携が必要。各年齢に合わせた工夫が必要。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 社会教育推進のための基盤整備 | 担当課名 | 図書館 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 図書館サークル・おはなしボランティアの育成 | 担当者名 | 吉田　真希子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 読書の楽しさや素晴らしさを伝えるおはなしボランティアやサークルを育成し、図書館との協働による読書の推進を図る。 | | | |
| 事業の対象 | 町民 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 10 千円 | 10 千円 | 10 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ○朗読の会「秋桜」（H7.5.18発足、会員数9名）<br>活動内容：定例会（月1回）、朗読のつどい（年1回）、おはなし会（2回）、練習等13回<br>延べ人数：86名<br><br>○ おはなしサークル「虹色の会」（H8.6.27発足、会員数10名）<br>活動内容：定例会（月1回）、図書館行事「ドキドキおはなし会」への協力、練習等<br>※ 令和7年度から活動休止中。<br><br>○広報７月号「としょだより」にてサークル紹介を掲載。 |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |

| | |
|---|---|
| 評価説明及び考察、課題 | ・朗読の会がＲ7年度に図書館からの呼びかけに応じ「おはなし会」を2回実施した。当初の予定よりも少ない回数となったが、R8年度の協力を得られた。<br>・おはなしサークルは、休止状態が続いている。休止状態が長く続くと再活動が難しくなり消滅が懸念される。<br>・既存のおはなしサークルとは別に新しい読書団体の設立や、個々の読み手の技術的なスキルアップ、読み聞かせボランティアの育成が求められる。 |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・広く町民に興味を持ってもらえるような広報活動も必要だと思う。

・今後も周知の仕方を工夫しつつ、サークル・ボランティアの活動に加わる方々を増やす努力を希望する。

・会員の減少もいたしかたないが、本に対する興味を持たせるためにも継続していただきたい。

・長年続いている団体の活動には感謝しかない。せっかく素晴らしい活動をしているので、もっと宣伝して活用してもらってほしい。

評価委員意見（令和7年度）

・読み聞かせボランティアの育成や、新しい読書団体の設立に期待したい。

・素晴らしい活動なので頑張ってもらいたい。

・幼少期の子供へのふれあい、読み聞かせは必要。サークル等には頑張ってもらいたい。

・ボランティアの育成にさらに本腰を入れて取り組んでほしい。これまでの活動してきたことを継続してほしいと心から願う。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 青森県小学生スキー大会の開催 | 担当者名 | 田村　優宝 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | スキーを通じて児童の健全育成及びスキー技術や資質の向上を目標とし、スキーの町、野辺地町を全県的に広報しながら、実行委員会を中心に町をあげて応援、実施するものである。 | | | |
| 事業の対象 | 県内小学生３～６年 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 0 千円 | 0 千円 | 150 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | 競技種目：距離競技<br>※大回転競技については、まかど温泉スキー場の大雨災害より休止。<br>個人競技：6チーム　　参加人数：29名<br>リレー競技：男子３チーム　女子３チーム |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・近年は5名前後の減少幅で推移しており、競技方法等も検討しながら実施していきたい。<br>・令和７年度よりスキー場が使用可能となったため、スキークラブはじめ関係団体と連絡を密にとり、競技開催に向け準備を進めると同時に、参加周知等を改善し活気ある大会になるよう改善していく。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・参加者が年々減少しているのは残念であるが、将来的には運営方法の見直しなども検討しながら継続してほしい。

・クロスカントリースキーは、ぜひ継続してほしい。

・小学校統廃合をにらみ、早急に再検討をすべきではないか。

・スキー人口は減ってきているのは確かであるが、スキー発祥の地のプライドを持ち野辺地一丸となって頑張ってほしい。

評価委員意見（令和7年度）

・クロスカントリースキーは参加者の減少はあるが、継続してほしい。

・スキー人口は減少しているが、人気のあるスノーボードが野辺地で出来ないことが残念。

・スキー発祥の地でもあるので、子供の数が減る中ではあるが、続けてほしい。

・町から各小学校へスキーを購入していただいていることも含め、町のスポーツと町民も認識しているので、継続していただきたい。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 競技スポーツの推進 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰 | 担当者名 | 小又　美穂 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | スポーツ競技大会において優れた成績をおさめた者を表彰し、野辺地町のスポーツの普及、振興を促進することを目的とする。 | | | |
| 事業の対象 | 野辺地町表彰規則による（町民ほか） | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 316 千円 | 428 千円 | 609 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ●授与式　令和8年2月25日（水）　野辺地町中央公民館　ホール<br>○町スポーツ賞<br>①スポーツ功労賞1名　②スポーツ指導者賞（個人）1名<br>③スポーツ大賞（個人）3名　④スポーツ賞（個人）7名（団体）1団体<br>⑤スポーツ優秀選手賞（個人）23名（団体）4団体<br><br>○教育委員会スポーツ賞<br>①生涯スポーツ優秀賞（個人）1名<br>②スポーツ奨励賞（個人）8名（団体）2団体 |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない | |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない | |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない | |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない | |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
| 評価説明及び考察、課題 | ・関係団体との連携を図るほか、引き続き広報誌と町ホームページで候補者の推薦を呼びかけ、事業を周知し、受賞者漏れを防ぐ。<br>・時代の流れに合わせた表彰規則、運用要綱等の見直しを随時行う。<br>・令和7年度表彰分から、町内小中学校の負担軽減のため、小中学生については各団体からの推薦のみとしている。 | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・今後も受賞者漏れがないようお願いする。

・継続を希望する。

・競技者の目標ともなり、継続を願いたい。

・行っている事業は素晴らしいものだと思う。

評価委員意見（令和7年度）

・継続を希望する。

・受賞された方の更なる飛躍につながると願う。

・励みの場であるので続けてほしい。副賞については、最近は実用的なものが好まれるのではないか。

・受賞者漏れの無いよう継続を希望する。

# 事務事業評価シート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 施　策　名 | スポーツ環境の整備・充実 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
| 事務事業名 | 学校体育施設の開放促進 | 担当者名 | 田村　優宝 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | スポーツ活動の普及・振興を目的として町内小・中学校の体育館、校庭を児童・生徒が使用していない時間に開放する。<br><br>年間で使用する団体へは一年ごとに申請書を提出してもらうこととしている。 | | | |
| 事業の対象 | 町民 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | 令和７年度　　利用回数<br>年間開放回数　　987回<br>野辺地小学校　455回　(5団体)<br>若葉小学校　274回　(3団体)<br>野辺地中学校　256回　(5団体) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・多くの団体が体育館を利用し、活動が行われている。<br>・窓や入口等の施錠忘れ等の注意喚起を行っている状態である。<br>・小学校統廃合もあるため、注意喚起や意見交換等を行う会議を実施する。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| | |
|---|---|
| 総合評価 | A |

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・これからも継続が必要な事業だと思う。

・練習する場が足りない中、多くの利用者は本当に助かっていると思う。マナーを守って活用してほしい。

・若干の費用は必要だが、広く利用されており継続を願う。

・利用団体、学校、役場ときちんと連携がとれ、お互いが気持ちよく利用できるよう望む。

評価委員意見（令和7年度）

・これからも継続が必要な事業だと思う。

・今後もマナーを守って活用してほしい。

・利用したくてもできなかった人はいなかったか。利用のための決まりなど、一般の人にはよく分からないことが多いのでは。

・施設開放は必要と思うが、利用料等（電気代）は５％程度の負担をしてもらってもよいのではないか。

・体育館を利用する団体にとって、とてもありがたい事業なので、利用する側もマナーを守り、お互い気持ちよく利用できるように望む。

# 事務事業評価シート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 施　策　名 | スポーツ環境の整備・充実 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
| 事務事業名 | スポーツ少年団への支援と育成 | 担当者名 | 小又　美穂 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 子どもがスポーツ活動を行いやすい環境をつくり、スポーツを通して団体行動や仲間づくりに励む場を提供する。<br><br>〈令和７年度登録状況〉<br>団数　９団　　団員登録者数　１１９名　　指導者・スタッフ数　３７名 | | | |
| 事業の対象 | 幼児～高校生、指導者 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 372 千円 | 375 千円 | 373 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | 町スポーツ少年団の事務局として、団員の登録申請や各スポーツ少年団大会申込等を行う。<br>また、各単位団に大会参加料や活動費等として、補助金を交付する。<br><br>（補助）<br>・団体割　…町スポ少へ登録している団体へ助成<br>・認定員講習会参加費…資格取得のための講習会に参加した方への助成 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・子どもたちのスポーツ環境を支える重要な役割を担っており、今後は人口減少や部活動の地域移行も見据えて指導者資格の取得・更新費用の助成、練習環境の確保など様々な面で支えていく必要がある。<br>・スポーツ少年団の登録料が年々増額となっており、町の持ち出しが増えているが国等からの財政措置が少ない。また、指導者資格の取得・更新費用も増額傾向にあり、指導者不足が懸念される。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| | |
|---|---|
| 総合評価 | A |

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・スポーツ少年団の活動を安定的に継続するために必要と思われる。

・指導者や保護者の負担軽減にもつながるので、継続が必要だと思う。

・担当課評価のとおり。金銭面での支援を今後考えて、予算をつけていかなくてはならないと思う。

・児童数が減少する中で、支援は必要不可欠と考える。

評価委員意見（令和7年度）

・安定的に活動するために継続して支援していただきたい。

・指導者や保護者の負担軽減になるので、継続してほしい。

・スポーツを通して町全体を盛り上げてもらいたい。

・大変ありがたい支援なので継続を希望する。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 競技スポーツの推進 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 青森県民駅伝競走大会選手強化支援 | 担当者名 | 黒澤　晋一 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 県主催の市町村対抗駅伝競走大会である。<br>各学校の陸上部、スキー部顧問、アスリートクラブ等で実行委員会を組織し、参加対象者の小学生、中学生、高校生、一般選手を育成して、町選手団として大会に臨む。 | | | |
| 事業の対象 | 小学生・中学生・高校生・一般 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 795 千円 | 596 千円 | 0 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | 期日：令和７年９月７日（日）青森市<br>結果：総合の部　１９　位　　町の部　８　位<br>選手選考会　６/２１　７/５<br>現地試走会　８/１９　８/３０　９/６<br><br>５／１５　　第１回実行委員会<br>７／１４　　県へ選手名簿提出<br>８／２１　　市町村代表者会議<br>８／２５　　第２回実行委員会兼付添者会議 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・選手選考会に参加していただける選手が年々減少しており、今後選手確保が難しくなると感じている。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | A |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・野辺地町の名を背負って頑張ってくれる選手やスタッフのためにも継続をお願いする。

・青森県のビックイベントなので、今後もぜひ支援をお願いする。

・出場を目指す選手には大切な事業と思うので、継続し支援していただきたい。

・取組強化の結果が出ており、町民として応援する方も増えているので、ぜひ頑張っていただきたい。

評価委員意見（令和7年度）

・選手や各団体にとって大事な事業だと思うので、継続を希望する。

・町民全体で応援できるように盛り上げて行けたらいいと思う。

・競技人口が減少している中ではあるが、県の重要イベントの１つであり支援してほしい。

・選手の確保に苦慮されているようだが、町の代表として頑張ってくれる選手の発掘に期待する。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | スポーツ環境の整備・充実 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 町スポーツ協会活動支援 | 担当者名 | 米内山　周大 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | 当町のスポーツ振興の中核を担うスポーツ協会を支援し、町民の体力・競技力を育てるとともに、スポーツにより町の活性化に資するものである。<br><br>令和7年度　加盟団体　21 | | | |
| 事業の対象 | スポーツ協会員 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 700 千円 | 900 千円 | 700 千円 |

| | |
|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | ○第48回上北郡総合スポーツ大会参加支援<br>令和7年5月18日（日）、24日（土）、25日（日）、31日（土）、6月1日（日）　会場：六戸町ほか<br>総合成績：7町村中6位　（参加競技：16競技中12競技）<br>優勝種目：卓球男子、ボウリング<br>○第78回市町村対抗青森県民スポーツ大会参加支援<br>主会期：令和7年7月26日（土）、7月27日（日）東青地域<br>総合成績：30町村中19位　（参加競技：20競技中6競技）<br><br>優勝種目（町村の部）：なし |

| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| | □ 十分必要である | ■ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| | □ 十分寄与する | ■ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている |
| 評価説明及び考察、課題 | ・加盟団体実施事業に対し、事業活動費や大会派遣費に助成することにより継続的な活動ができ、町民に各種スポーツの魅力を発信できていると思われる。<br>・年々加盟団体の会員総数が減少しており、今後は各団体で会員数の確保・維持が課題と思われる。 | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・今後も支援は必要だと思う。広報活動等で各団体の会員数を増やす工夫も必要である。

・高齢化の波が全国的に押し寄せてきている中、良く継続している。得意な分野で活躍できるように今後も支援をお願いする。

・当町のスポーツに係る中心的組織であり、引き続き支援を継続していただきたい。

評価委員意見（令和7年度）

・優勝種目も複数ある事から、今後も活躍できるよう継続して支援を希望する。

・町の活性化のため、スポーツでも盛り上げてほしい。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 競技スポーツの推進 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 競技スポーツ強化支援事業 | 担当者名 | 田村　優宝 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業の目的・内容 | まち・ひと・しごと創生総合戦略登載事業<br>東北大会、全国大会への出場が決定した町内小中学校、高等学校に在籍する個人、団体に対し、事前の強化合宿及び遠征に必要な経費を助成し、大会での上位入賞を支援するとともに、町のこどもたちの目標となる選手の育成及び競技力向上を目指し、活気ある町勢を実現する。<br>平成２８年度より実施。 | | | |
| 事業の対象 | 町内小学校、中学校、高等学校に在籍する個人・団体 | | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 2,592 千円 | 3,276 千円 | 千円 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の実績・成果等（数値） | 令和７年度助成実績額 | | 3,275,695円 |
| | 内訳：中学（東北） | 1団体1件 | 33,167円 |
| | 中学（全国） | 2団体3件 | 177,026円 |
| | 高校（東北） | 4団体7件 | 1,839,322円 |
| | 高校（全国） | 5団体7件 | 1,226,180円 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業の評価（自己評価） | 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
| | ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| | 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | |
| | ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| | 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | |
| | □ 十分できている | ■ おおむねできている | □ できていない |
| | 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | |
| | □ 達成できている | ■ おおむね達成できている | □ 達成できてない |
| 自己評価 | B | 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている | |
| 評価説明及び考察、課題 | ・助成対象者へ経費支援を行うことで、大会での好成績を期待する。<br>・年々東北大会・全国大会出場等成果は表れているため、引き続き支援を行っていきたい。 | | |
| 事業の方向性 | □ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・遠征や強化合宿は経済的負担が大きいため、継続が必要だと思う。

・経済的負担の軽減は理解できるが、助成の対象が全体として理解されているのか不明である。

評価委員意見（令和7年度）

・遠征等にかかる経済的負担は大きいため、町民の理解を得ながら継続していただきたい。

・指導者や保護者の負担軽減になるので継続を希望する。

・継続は必須。

・上位大会への補助は家族の負担も大きいので必要。広報でももっとアピールしても良いのでは。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | スポーツ環境の整備・充実 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 体育施設の総合的な修理修繕と運営 | 担当者名 | 玉山　順一 |

| 事業の目的・内容 | 住民が気軽にスポーツを楽しむことが出来るよう、使いやすく、快適性のある身近なスポーツ施設の整備促進に努め充実を図る。 | | |
|---|---|---|---|
| 事業の対象 | 社会体育施設（スポーツ施設） | | |
| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
| | 金　額 | 5,561 千円 | 7,263 千円 | 3,517 千円 |

**事業の実績・成果等（数値）**

各社会体育施設修繕　　令和7年度

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 支出 | 町立体育館 | 修繕 | 2,107,743円 | 備品購入 | 80,630円 |
| | 運動公園 | 修繕 | 697,576円 | 備品購入 | 733,040円 |
| | 屋内温水プール | 修繕 | 2,486,000円 | 備品購入 | 0円 |
| | 体育センター | 修繕 | 339,900円 | 備品購入 | 0円 |
| | あったかハウス | 修繕 | 817,300円 | 備品購入 | 0円 |
| | まかどスポーツセンター | 修繕 | 671,688円 | 備品購入 | 0円 |

①野辺地町立体育館
　修繕：非常用足元灯交換修繕、水銀ランプ交換修繕（2回）、ブロアポンプ交換修繕ほか
　備品：パソコン
②野辺地町運動公園
　修繕：乗用芝刈機点検整備、刈払機点検整備、運動公園内駐車場区画線設置修繕ほか
　備品：刈払機、乗用草刈機、グランドレーキ
③屋内温水プール
　修繕：トレッドミル修繕、プール昇温系統・事務室等床暖房系統配管修繕ほか
　備品：ストレッチマット、高圧洗浄機
④体育センター
　修繕：水銀灯カバー修繕、誘導灯交換修繕ほか
⑤あったかハウス
　修繕：玄関ドア修繕、ストーブ修繕、圧雪車整備点検・タイヤ修繕ほか
⑥まかどスポーツセンター
　修繕：時計更新修繕、玄関ドア交換修繕など

**事業の評価（自己評価）**

| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | |
|---|---|---|
| ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| **有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）** | | |
| ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| **経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）** | | |
| ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない |
| **目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）** | | |
| ■ 達成できている | □ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| 自己評価 | A | 優れた取組みが多く、十分成果が上がっている |
|---|---|---|
| 評価説明及び考察、課題 | 成果：予算の範囲内で工事・修繕・備品購入等が予定通り実施できた。<br>課題：体育施設において修繕等を計画的に実施しているが、各施設において突発的な修繕が発生している。 | |
| 事業の方向性 | ■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | A |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・老朽化で修繕も大変だと思うが、安全で快適に利用できるようにしていただきたい。

・お金のかかることが多くて大変だと思う。必要なところから進めてほしい。

・ほとんど全ての施設が老朽化しており、計画的な修繕・改良が急務と考える。

・予算を伴う事業なので仕方がないのかもしれないが、建て替えを検討しても良い施設が多いように思われる。

評価委員意見（令和7年度）

・老朽化は多くの建物に共通した問題である事から、優先順位を決めて取り組んでほしい。

・必要なことはやっていただきたい。

・計画的な修繕と購入をお願いしたい。

・できれば新しい体育施設ができることを期待する。このまま修繕、修理だけしていてもいつか限界がくるのではと感じる。

# 事務事業評価シート

| 施　策　名 | 第８０回国民スポーツ大会の開催 | 担当課名 | 社会教育・スポーツ課 |
|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 青の煌めきあおもり国スポ野辺地町実行委員会 | 担当者名 | 玉山　順一 |

| 事業の目的・内容 | 第８０回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」ハンドボール競技会の円滑な運営 |
|---|---|
| 事業の対象 | 競技関係者、町内外の来場者 |

| 事　業　費 | 年　度 | 令和　6　年度決算 | 令和　7　年度決算 | 令和　8　年度予算 |
|---|---|---|---|---|
| | 金　額 | 732 千円 | 2,473 千円 | 52,647 千円 |

| 事業の実績・成果等（数値） | |
|---|---|
| 開催競技 | ハンドボール少年男子<br>１６チーム　約２００名余り |
| 開催期間 | 令和８年９月４日（金）～７日（月） |
| 開催場所 | 青森県立野辺地高等学校 |
| ①町実行委員会、専門委員会の開催 | |
| ②青の煌めきあおもり国スポ野辺地町実行委員会ＨＰ開設 | 令和７年１２月 |
| ③広報・啓発活動 | |
| ア　懸垂幕、横断幕　・・・ | 役場庁舎西側。野辺地高等学校、駅アーケードほか |
| イ　のぼり旗　・・・ | 役場庁舎、町内公共施設　６０本 |
| ウ　カーマグネット　・・・ | 公用車、スクールバス、町バス |
| エ　カウントタイマー・・・ | 役場正面入口 |
| オ　ノベルティ制作　・・・ | メモ帳（カウンターに設置、会議等で配布） |
| ④青森市リハーサル大会開催 | 令和７年８月９日（金）～１２日（火）課員６名 |
| ⑤滋賀県国スポ調査等 | 令和７年１０月３日（金）～７日（火）、１２月下旬 |
| ⑥抽選会調査（東京都） | 令和７年９月上旬 |
| ⑦会場設計業務委託の実施 | |

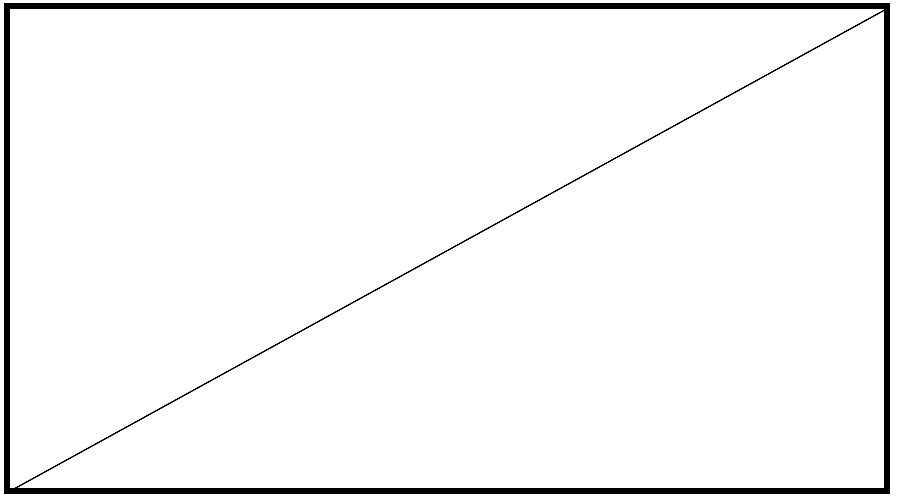
| 事業の評価（自己評価） | | | |
|---|---|---|---|
| 必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。） | | | |
| | ■ 十分必要である | □ おおむね必要である | □ あまり必要でない |
| 有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。） | | | |
| | ■ 十分寄与する | □ おおむね寄与する | □ あまり寄与していない |
| 経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。） | | | |
| | ■ 十分できている | □ おおむねできている | □ できていない |
| 目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。） | | | |
| | ■ 達成できている | □ おおむね達成できている | □ 達成できてない |

| 自己評価 | A | 優れた取組みが多く、十分成果が上がっている |
|---|---|---|
| 評価説明及び考察、課題 | 令和８年度開催に向け、町民や関係団体との連携をし、今後のスポーツの普及・振興の発展、地域の活性化につながるように取り組みたい。 | |
| 事業の方向性 | ■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する<br>□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了 | |

事務評価委員の評価

| 総合評価 | B |
|---|---|

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）



評価委員意見（令和7年度）

・様々な町の取り組みがあり、盛り上がってきているように感じる。町外から来られる選手団や応援団の方々にいい思い出になってほしい。

・今後のスポーツへの取り組みを発展させる為にも、円滑な運営に期待したい。

・育成と競技力向上のためには継続が必要。

・職員の皆様、ハンドボール関係の皆様が頑張っているのは本当に良くわかる。ただ、町民との温度差があるようで残念。